

106) ^{ふるさと}故郷に帰りたいのは

^{ふるさと}故郷に帰りたいのは 哀しみを忘れたいから
故郷の家に帰って 玄関で靴を脱ぐとき
あそことまるで変わらぬ 懐かしき土の香りが
安らげる自分の場所を はっきりと教えてくれた
故郷に帰りたいのは ゆっくりと眠りたいから
故郷の畳の部屋で 天井を仰ぎ見るとき
幼き日幼き香り 交差して眠りをさそう
優しさに包まれながら 安らかに^{とき}時間は流れた
故郷に帰りたいのは 純粹さ取り戻したいから
故郷の木戸をくぐって 裏庭に立ち止まるとき
夏休みトンボ採りした あそこがまぶたをよぎり
タンポポの綿毛を運ぶ 夏風に心あずけた
故郷に帰りたいのは 人生に^{つまづ}躓いたから
故郷の丘にのぼって 暮れてゆく空を見るとき
限りない宇宙の果てに ちっぽけな自分があつて
悠久に^{ひれふ}平伏すように 大空と一つになった